

城原川だより 75号 城原川を考える会

【ダムに拠らない治水をめざすには】

2018 6. 15日(金)

次回発行予定 2018年 7月 20日(金)



梅雨の走りを思わせるような、低い雨雲と強い風とムッとする湿度の中、5月18日第112回定例会を開催しました。県砂防課からは、城原川ダム等対策室の室長、同副室長、ダム対策担当係長の3名の方が参加されました。

県は野越や霞堤などの城原川流域に残る伝統治水システムが超過洪水対策に有効かどうか勉強されているのですが、私たちはあくまでもダムに拠らずに地域を守ることができるのではないかと、という視点で活動しています。ただ、会員の中には「もしダムが出来るのであれば、住民としてただ見ているだけではなく、いろんな疑問に答えてもらい、本当に安全で、役に立つものを作ってもらわなければならないと思う」という意見もあります。いろんな疑問とはたとえば、

* 付け替え道路はどこにつくのか

* 脊振地区は分断されるのか

* ダムでは守れない流域の安全はどうするのか

- ・ 脊振地区の急傾斜地、土石流、流木対策
- ・ 中下流域の内水被害
- ・ 堤防の脆弱さはどうするのか
- ・ 下流域の高潮対策は

* ダム予定地の下にある仁比山神社、八天神社（神奈備山）の景観や環境はどうなるのか

注) 神奈備山とは御神体として直接崇拝の対象とされる山をいう。

- ・ 両山は雲を湧かすと言われるほど水とのかかわりがある。その水道はダム建設に拠り断たれるのか
- ・ ダム直下の地域は10年近く工事車両の出入りが続くと思われるが、近隣住民にかかる迷惑に対してどういう対策をとるのか
- ・ 大御田祭などに影響はでるのか
- ・ 地元では仁比山神社北方向に東西に断層があると認識されているが、調査されたのか
- ・ 建設予定附近の城原川そのものが縦方向の断層ということはないのか

- * 合口されるという取水口だが、その水に対する負担金は誰が支払うのか
- * 今ある各取水口がなくなると集落の水（防火用水、生活用水等）はどうすればいいのか
- * 弥生時代（国交省資料）から、営々と流域の生活と密接に結びついている草ぜきなどの取水文化は潰してしまうのか
- * 佐賀県はダム建設費として最終的にいくら負担しなければならないのか
 - ・ 費用対効果1.3（総便益571, 4/総費用449, 5）の計算は将来逆転するのでは
 - ・ 総費用が約450億円で済むとは誰も思っていないのでは
- * 穴あきダムから水を溜めるダムに変更になる可能性はないのか
- * 将来（それが500年後としても）のことまで考えているのか、メンテナンスや撤去することなど
- * 穴あきダムの安全性について
 - ・ 流木や土石で穴が詰まることはないのか
 - ・ 人がコントロールできない状態（オーバーフロー）のとき二波、三波の豪雨と放水水が重なるとどういう状態になるのか
 - ・ 試験溜水で地震や漏水が起きた例が他のダムでは起こっているが、その時の対策は
- * ダムによる景観や環境の変化は
 - ・ 穴から放出される水の勢いを受ける副ダム（コンクリートによる水受け）やダム上流の石や土砂を止める砂防ダムなどが今後必要になるのか
 - ・ 水がない状態の時、湖底は有害獣の巣と化するのでは
 - ・ 魚道はどう付けるのか
- * 野越や霞堤の今日的利用価値を調査したことはあるのか
 - ・ 霞堤や野越しについて、受け堤が撤去されたことだけに注目しているのではないのか
 - ・ 城原川の治水利水機能を補助する河川（野越しからの越流水を排水する河川）が存在するが、調査したことはあるのか
 - ・ 国交省発行の「城原川ダム建設事業説明資料」の「事業の緊急度」という個所に、H21年、H22年の大雨の時、計画高水位を上回り洪水が発生し、野越しから越流し浸水被害が出た、とあるが、この時の越流した田んぼに被害はなく、浸水被害は内水で起こって

いることは整理して記すべきではないか

*城原川近くには住宅も多くなり人口も増え、守るべき社会資本も多くある、と言うことだが、もともと水が来るところに宅地開発などを黙認した責任はどこにあるのか。また、ダム建設後、安全性が確保されたとして、いっそう川の周りを開発利用していくのかなどなどです。これらのことにも取り組んでいく必要があると考えています。もちろん、ダム建設そのものへの本来の疑問も多々あります。

報告事項

5月15日、風浪宮沖祭り参加しました。



写真1) 風浪宮から船で若津港までやってきた三名の神官。

ここで御座舟に乗り換えます。御座舟には宮乙名^{みやおとね}の方々も乗りこまれ、船中で稲ワラをつかい「三段浮かし」を作り始めます。私たちも他の船に乗り込み出発。



写真2) 「三段浮かし」この祭りをしていいか海神のご意向を

うかがう占い。ワラをねじり直径50センチほどの円錐形を大小二つ作り、それぞれ百田紙^{ももたかみ}という白紙を被せ竹筒三本と三体の小幣を挿します。竹筒にお神酒を、竹筒と小幣を結んだ麻の輪に載せた土器には小豆飯のお供えを入れて沖へ流します。



写真3) 潮が引いた海底で行われる神事 かつて風浪宮の安

曇宮司は「海底にしつらえる祭壇はワタツミノカミの社でしょう」と述べておられます。有明海と平野と山をとを深く考えさせられるお祭りです。詳しいことは2008年発行の「日

本文化の景観学」桑子敏雄をごらんください。

5月20日柳川で、ジブリの高畑勲氏追悼の「柳川掘割物語」が上映

高畑監督には、広松伝さんの13回忌のときお会いしました。その時講演でお話されたことを城原川だより50号に記載していますので抜粋してみます。

柳川副市長のあいさつのあと、「川に対する各自の思いから、柳川のまちづくりの将来に向かってのアドバイス」をテーマに応援談義がおこなわれました。映画監督の高畑 勲氏を始め、寝屋川や荒川、遠くは仙台からと多くの方が参加され、それぞれに思いを語られていました。広松さんの活動と柳川再生を映画にした「柳川掘割物語」の監督、高畑 勲氏は「撮影当時の柳川市は冷たかった。（広松さんのすごかったところは）大手のゼネコンではなく、柳川の零細業者と手を組んだ。映画では、広松さんはすごい人というメッセージだけでは面白くないと思い、ああいう映画を撮った」とお話されました。

あらためて映画を見てその時の高畑監督の言葉が納得できました。機会があれば皆さんもぜひ見てください。地域の文化や歴史を含む景観というアイデンティティーを守る力は住民こそが持っているという強いメッセージが伝わってきます。

第 112 回定例会資料

城原川だより 73 号

第 33 回水郷水都全国会議 i n 朝倉・久留米大会報告書

すごいぞ！ボクの土木展チラシ

第 114 回定例会 7 月 20 日（金） 14：00～16：00 神崎市中央公民館

第 115 回定例会 8 月 （ ） 14：00～16：00 神崎市中央公民館

第 116 回定例会 9 月 （ ）

参加費用（資料代） 200円

月曜勉強会（祝祭日を除く毎月曜日） 10：00～12：00

千代田町福祉センター

皆様のご参加お待ちしております

代表 佐藤 悦子 〒842-0056 神崎市千代田町境原 282-12

電話 0952-44-2925

副代表 平田憲一 〒842-0122 神崎市神埼町城原 1877-1

電話 0952-52-2827

Mail : teaho74@yahoo.co.jp

ブログ ふるさとの川城原川 livedoor.jp/ jyubarugawa

<https://ameblo.jp/jyubarugawa/>

メールまたは、上記各連絡先へ、ご意見、疑問、質問、反論、どしどしおよせください。

文責 佐藤悦子